

埼玉県議会 12月定例会 TOPIC

① ジェンダー視点による 避難所開設・運営マニュアルを県が作成

全国で初めて埼玉県がジェンダーに配慮した避難所運営マニュアルを作成しました。考え方として、誰もが安全・安心な生活空間の確保を目指し、リーダーには男女両方を配置すること、特定の性別や立場の人に役割が偏らないようにすること等が掲げられています。具体的な避難所マニュアルのチェックリストやレイアウト例を記載し、今年度中に各市町村の避難所マニュアルを県の考え方に沿って改定してもらうようお願いをしています。



昨年2月定例会の一般質問で行った質問が実現しました!

② 県の防災拠点校の 空調設備を前倒して完備へ

能登半島地震でも避難所となった学校体育館。埼玉県でも防災拠点校となる22校の県立高校体育館の空調設備を令和7年度中に前倒して完備することとしました。

お近くの拠点校がどこになるのか是非チェックしてみてください。



詳しくはこちら▶

③ 埼玉県警への警察官が 175人増員予定(令和7年度)

埼玉県は全国一警察官一人当たりの負担人口が多いということ、「闇バイト」による身近な犯罪の増加やサイバー空間の対処能力強化の必要性などから警察官の増員を議会から国へ要望をしていました。

警察官の定数は政令で決まっており、令和7年度の国の予算案に本県の警察官が175人増員されることが盛り込まれました。

県が力を入れている DX (デジタルトランスフォーメーション) とは一体何?



昨年11月に県が行った県民満足度調査(5,000人対象、有効回答率51.4%)においてDXについて「全く知らない」「あまり知らない」と答えた方の割合は85.4%でした。聞いたことはあっても実際に私達の生活がDXの活用によりどう変わるのか、どんなメリットがあるのかまで伝えきれていないと感じました。

私が所属する企画財政委員会はDXについて所管していますので、今号では「のめりいの報告」と合わせてDXがどんな変化をもたらしているのか現場の声を聞いてきました。

そもそもDXとは、「デジタルの力を使って仕事や生活を新しい形に変化させること」で、社会に新しい価値を生み出していくことが目的です。

企画財政委員会

パスポート申請手数料が令和7年3月から改定され、オンライン申請の方が安く楽になります。(オンライン申請はマイナンバーカードを持っていることが前提)

	現在	R7.3~		パスポートセンターに行く回数
	手数料	手数料	戸籍謄本	
オンライン	2,000円	1,900円	不要	1回(受取時のみ)
紙		2,300円	要	2回(申請時と受取時)

委員会での
詳しい質疑は
こちら▶



県民の利便性向上につ
いてもっと周知すべき。



地方創生・行財政改革特別委員会

県庁内部でもDXが仕事のプロセスを変えています。

ペーパーレス化

- コピー使用料削減
- リモート会議による旅費削減

生成AIで議事録作成・RPA*

R5年度

約4.7億円 節約

11,833時間 削減

生み出した時間は
県民サービス
向上へ

委員会での
詳しい質疑は
こちら▶



DXの最終段階である
新たな価値やサービス
の形が県民にもっとイメ
ージできるようにすべき。



*RPA……データ入力を自動入力・自動集計し、例えば勤怠管理を自動的に給与計算に反映させることが可能